守山まるごと活性化計画　玉津学区　第 3 回会議

1. 実施概要

学区・回	玉津学区　第 3 回
日　時	2013 年 8 月 13 日（水）　19：30～21：30
会　場	玉津会館
参加者	住民 13 人（赤野井 5 人、矢島 4 人、石田 2 人、十二里 2 人） 守山市（松岡、鈴木、松山、坪内、吉原、足立） 地域未来研究所（奥村、田渕、小野田、貞松）
会場設営	３テーブルを配置。くじでテーブルを指定して着席（赤野井、矢島、石田＋十二里）
実施経過	１．挨拶 ①開会挨拶（坪内主査） ②開会挨拶（谷口学区長） ２．説明 ①本日のプログラム内容（奥村） ②第 2 回検討結果の説明（奥村） ３．意見交換（テーブル別ワーク） ①前回のふりかえり ・前回の会議結果を整理した資料を見ながら、抜けているたからものの追加、分類の再検討を行った。 ・「集いの場・活動」の項目では、各自治会の住民集会所や自治会館、同年会等の追加があった。 ・「伝統・文化、歴史」の項目では、伊賀坊、諏訪屋敷、六条堤、赤野井東・西別院など地区内の神社仏閣の追加があった。 ・「人が集う仕組み」の項目では、学区民大運動会や学区民の集いなどの追加があった。 ・「自然」の項目では、天神川、あか池などの水関係資源の追加があった。 ・また、新たな項目としては、「赤野井を中心とした７つの放射状道路網」の指摘があった。 ②学区のまちづくりの課題と方向 ・学区が抱える問題点や課題については、各テーブルとも共通して「少子・高齢化」

	による各地区の活力低下に関わる意見が多くだされた。 ・課題のカードは模造紙に貼り、グルーピングして概略の特徴を整理した。 **４．結果の発表・共有** ・テーブル毎に参加者の代表が地域の課題、課題に対応するための方針について検討結果を発表。 ・各テーブルに共通して、「少子・高齢化」、「若者を地区に引き留める」、「新住民を受け入れる仕組み」などに関連する課題があげられた。 **５．その他** ・次回会議の開催日時は、9 月 18 日（水）19:30～、玉津会館にて開催が決定された。

第 3 回玉津学区会議の様子

2. 第 3 回学区会議の意見まとめ

地区のまちづくりの課題や方向性をまとめた。

＜玉津学区のまちづくりの課題＞

■少子高齢化・人口減少

① 地区の人口構成が高齢化している。地区の若者の流出がある。

② 地区の若者も地区外に流出する傾向にある。子どもも少なくなっている。

■人と人のつながりの希薄化

③ 個人主義になり、自己中心的な若者が多くなってきた。

④ 地域の連帯感が薄い。地域団体の解散も見られる。

⑤ 親戚、近所つき合いの希薄化が進んでおり、人と人が助け合うという精神が薄くなっている。

■地域の伝統・行事・活動の担い手不足

⑥ 伝統を残すお祭りの参加者が減ってきた。祭りの神輿をかつぐ人も少なくなっている。

⑦ 自治会単位での行事（運動会など）がしにくくなっている。

⑧ 守山市内で唯一の「学区民大運動会」の継続が難しくなっている。（少子高齢化のため）

⑨ 地域行事への若者の参加が少ない。

■地域産業の衰退、賑わいがない

⑩ 近所に飲食店や買物をするところが少ない。→ 近くの大規模店舗に行ってしまう。

⑪ 1 次産業（農業・漁業）の後継者が不足している。農業志向の若者が少ない。

⑫ 地域の産業を活性化する方策が必要。（例：１次産業の６次化）

■新しい住民が転入しにくい、新住民を受け入れる意識・仕組みが必要

⑬ 調整区域で新しく宅地をつくれない。→若い人が出て行く、入りにくい。

⑭ 外来者は空き家、土地を買えない。→新たに転入できない。

⑮ 新旧住民が共存できる意識・制度が必要

■生活環境の整備、公共交通が不便

⑯ 生活環境のインフラ整備が必要である。（防犯灯、公園、道路改修など）

⑰ 公共交通の便が悪い。その一方で、自動車の増加による事故が多い。

■川や琵琶湖などの自然が失われている

⑱ 地区内の川に水が流れていない。

⑲ 赤野井湾の汚染、外来植物（オオハナミズキンバイ）の増殖

2.1　地域のまちづくりの課題、方向

学区の課題	具体的な内容	方向性・解決策
少子高齢化 人口減少	人口が減少している（高齢化）	○　若い人が住みやすい環境づくり ○　地区計画による魅力あるまちづくり ○　住宅団地の開発、商業施設の誘致 ○　人が集まる環境整備 ・企業施設の活用 ・体育施設の活用 ・通過交通をとめる工夫 ・川の公園化（地域資源を生み出す） ・水運遺構の観光資源化 など
	地区の若者の流出	
	二世帯、三世帯の家がこの学区に多いのが特徴であるが、何十年後には高齢化になっていきそう。	
	若い世代の跡取り息子が地域から離れるため、若い人達の存在感が欠けてきている。	
	若者が出て行く。若い世代が県外に出て行く。	
	子どもが少ない。	
	高齢化が進んでいる（高齢者が多い、高齢者が年々増加）	
	若い世代が家を建てられない（調整区域）。	
	青年の年代は外に目がいってしまっている。	
	小・中学生までと家庭を持つ年代が繋がっている気がする。	
人と人のつながりの希薄化	いろんな団体があるが、昔からある婦人会エルダ等の解散が進み、人とのつながりが希薄になっている。	○　玉津学区を結ぶイベントの実施（一本こうじ相撲大会、重量運び、屋形船、しだれ桜、湖岸の綺麗な夜景の活用など） ○　玉津学区を結ぶ歴史ある街道を結んだイベント ○　古い歴史のある道の活用（祭礼道など） ○　学区全体でのイベントの企画・開催 など
	自己中心的な若者が多くなってきた。	
	創っていこう、守っていこう、育てていこうという→地域連帯感が薄い。	
	親戚、近所つき合いの希薄化（本来はよい面なのだが）	
	人と人との助け合う心が希薄（本来はよい面なのだが）	
	向こう三軒、両隣、助けあいの精神が希薄。	
	生活改善をやりすぎると絆が薄れる。	
	個人主義になり、各世帯のつながりがなくなる。	
	伝統行事が継承されない。	

学区の課題	具体的な内容	方向性・解決策
地域の伝統・行事・活動の担い手不足	お祭りの参加者（伝統を残す）が減ってきた。	○　伝統文化の後継者づくり（幼い頃から教えていく） ○　長刀祭り存続のため、他学区との共同神事で存続させる。 ○　祭の担い手(年齢制限が 40 歳→60 歳へ枠拡大) ○　魅力ある地域づくり、まちづくり。 ○　歴史の研究することからはじめる成り行き、言い伝えなど、地域文化、歴史の語り部として社会貢献→高齢化・生きがいの開発 ○　玉津学区の文化伝統を次代に伝えていく仕組みづくり ○　地域の魅力を伝える場の創出　→　地域の祭りの PR など ○　若者が達成感を持てる行事 など
	神輿をかつぐ人がいない	
	小津神社の長刀祭りは子どもが主役であるが、少子化で子どもが減少し伝統文化が守れない。	
	全体的に少子化傾向にあるので、祭りごとや学区の行事に人が足りない。	
	自治会単位での活動（運動会など）がしにくくなっている。	
	守山市内で唯一の学区民大運動会の継続が難しくなっている。（少子化・高齢化のため）	
	伝統行事（長刀祭り、神輿かき等）を続ける時の人員（子ども）の確保が難しくなってきている。	
	伝統文化の継承の難しさ。	
	長刀祭り 8 年に 1 度、小津学区も含めての行事が継承できない。	
	祭の見物人も少なくなった。	
	歴史ある伝統の維持について人が減ってきている。	
	高度経済成長で歴史、伝統が失われる。	
	地域行事への若者の参加が少ない。	
	昔の道がなくなった。（小柿道など、昔をしのぶ道）	

学区の課題	具体的な内容	方向性・解決策
地域産業の衰退 賑わいがない	農業志向の若者が少ない。 飲食店が減少している。 近所に買物するところが少ない（ららぽーとに行く） 商売をやっていけない。 1 次産業（農業・漁業）の後継者不足 祭りも全て農から　→　農がすたれている。	○　農地の保全と宅地の確保 ○　商店街の賑わいの創出 ○　赤野井湾再生プロジェクト ・観光漁業、地産地消の促進 ・琵琶湖～諏訪屋敷を結ぶ天神川などの水運遺構の整備と観光資源化 ○　玉津学区を結ぶイベントの実施（一本こうじ相撲大会、重量運び、屋形船、しだれ桜、湖岸の綺麗な夜景の活用など） ○　体験型観光の提案（かまどご飯など） ○　玉津学区を結ぶ歴史街道を結んだイベント ○　地域のたからものの活用 ○　実行委員会の立ち上げ など
新しい住民が転入しにくい	調整区域で新しく宅地をつくれない。→若い人が出て行く、入りにくい。 外来者は空き家、土地を買えない（調整区域） 家を建てやすくする。 転入出来ない。 子ども夫婦と同居ができない。今の職場社会 石田自治会は混住の実績あり。40 年共にまちづくりを進めた。（65 戸→530 戸） 地元に外来者を受け入れる気持ちがあるか？ 新旧住民が共存できる意識、制度が必要。 古い伝統を押しつけられることが少なかった。（石田） 生活の中で交際費がウエイトを占めている。矢島は生活改善で申し合わせをしているが、学区全体で取り組んで欲しい。	○　地区計画の検討・策定を進める ○　市街地調整区域の考え方の再検討。 ○　住宅団地の検討 ○　派手なことはやめて目をかけ合う。 など

学区の課題	具体的な内容	方向性・解決策
生活環境の整備 公共交通が不便	街灯が少なく、夜、危険である。	〇安全で利便性の高いまちづくり
	若い人が喜んで住めるような施設・公園が必要。	
	集落内の道路の改修	
	車がないと移動しづらい。	
	自動車利用の増加により、交通事故が多い。（浜街道）	
	バス便が少ない	
自然が失われている	川に水が流れていない	○　赤野井湾再生プロジェクト ・自然環境促進（田園風景）琵琶湖の活用 ・赤野井湾の開発（リゾート、ボート、ヨット、シジミ養殖、鮒寿司、もろこ、など） →　市・県・国の補助を得るように地域で頑張る。　　など
	赤野井湾に外来種（オオハナミズキンバイなど）が増殖	
	赤野井湾の汚染	
	里内の川にきれいな水が流れるように。	
	圃場整備、田・道はよくなったが・・・	